

JAS Information

阿部 美春さんの「テープ録音機物語」出版のお知らせ

日本オーディオ協会事務局

日本電気音響（電音）、TEAC 等で録音機器を手掛けられた阿部美春さんが、JAS ジャーナル 2004 年 7 月号の「その 1」から 2012 年 11 月号の「その 66」まで、毎回読切り形式の連載で合計 500 頁を越えて執筆された渾身の力作、「テープ録音機物語」が単行本として出版されることになりました。

阿部氏は日本の録音機のみならず、標準化活動や画期的な新機種の開発などを通じて、世界の録音機の発展に大変な貢献をされました。「テープ録音機物語」には、磁気録音機に関する貴重な知識・経験を残しておきたい、との氏の思いが込められており「その 67」以降の構想も考えておられましたが、残念ながら 2013 年 1 月に逝去され、まさに絶筆となってしまいました。JAS ジャーナルでの連載をまとめて一冊の本にすることは、氏ならびにご家族の強い想いでありましたが、JAS としても微力ながら協力させていただくなかで、このたび書籍として完成をみた次第です。

JAS ジャーナル連載時には「その 1」から「その 14」まではジャーナルの印刷紙面に掲載され、「その 15」以降はネット配信で会員の皆様にお届けしました。連載記事をご愛読いただいた方も多かったと思いますが、欧州、米国、日本における磁気録音の発明から鋼線録音機、磁気テープ録音機（オープンリール、カセットテープ）に至るまで、録音技術と製品のおおよそ 100 年の流れが集大成されており、技術の最前線で活躍された筆者の豊富な経験が、単なる技術史を超える魅力を与えた読みごたえある一冊となりました。この機会にぜひお求めいただければと思います。なお、「テープ録音機物語」の連載を阿部氏と二人三脚で推進された、日本オーディオ協会元専務理事の藤本正熙氏から、阿部氏を偲んで「オーディオのレジェンド」の記事を本号に寄稿いただいております。

内容： 2016 年 6 月 11 日発売 B5 版 516 ページ 定価：12,500 円

目次： 次ページをご参照ください。

お求めの方法は[こちら](#)から



阿部 美春著「テープ録音機物語」目次

目次

まえがき	磁気録音100年の節目に	5	その38	戦後の日本 (3) NHKの携帯型テープ録音機 (2)	274
その1	磁気録音機の発明と実用化 磁気録音の着想と録音機の実用化	7	その39	戦後の日本 (4) 東通工の「デンスケ」	280
その2	テープ録音機の誕生 磁気録音テープの発明と播磨期	25	その40	戦後の日本 (5) 磁気録音テープの国産化	287
その3	マグネットホンの活躍 録音テープの量産・実用化	33	その41	戦後の日本 (6) 普及型テープ録音機の国産化	294
その4	マグネットホンの終戦 ステレオ研究施設と戦中・戦後	42	その42	戦後の日本 (7) 放送用据置型テープ録音機の国産化 (1)	301
その5	アンベックスの誕生 米国初のプロ用テープ録音機	49	その43	戦後の日本 (8) 放送用据置型テープ録音機の国産化 (2)	307
その6	ブラッシュ社の録音機 S. J. ビーガンの業績	58	その44	戦後の日本 (9) 放送用特殊テープ録音機	314
その7	戦後のアメリカ (1) アーマー研究所・スコッチテープなど	65	その45	ポケット型録音機 (1) 「ミニホン」と「ミゼテープ」	320
その8	マグネコダー マグネコダーと日本でのご運用	72	その46	ポケット型録音機 (2) 国産のポケット型テープ録音機	326
その9	Ampex 300 Ampex 300の詳細	81	その47	戦後の日本 (10) 総括	330
その10	戦後のアメリカ (2) コンサートなどのプロ用録音機	91	その48	テープレコーダーの普及 輸出産業に成長	334
その11	戦後のアメリカ (3) プレス社のテープ録音機・NAB規格	97	その49	特性標準化の動き (1) 米国と欧州の規格	339
その12	戦後のアメリカ (4) RCA	107	その50	特性標準化の動き (2) 国際規格	345
その13	番外編：RCA物語 (1) RCAの誕生と発展	116	その51	特性標準化の動き (3) 日本の国内規格	354
その14	番外編：RCA物語 (2) 激動期から末路まで	122	その52	ワウ・フラッターの規格 定義と測定	366
その15	戦後のアメリカ (5) ホーム用テープ録音機 -1-	130	その53	ステレオ・テープデッキ (1) 初期のステレオ・デッキ	373
その16	戦後のアメリカ (5) ホーム用テープ録音機 -2-	136	その54	ステレオ・テープデッキ (2) 4トラック・ステレオの誕生	381
その17	戦後のアメリカ (5) ホーム用テープ録音機 -3-	143	その55	ステレオ・テープデッキ (3) ヨーロッパのテープデッキ	391
その18	戦後のアメリカ (5) ホーム用テープ録音機 -4-	149	その56	ステレオ・テープデッキ (4) 国内のテープデッキ	399
その19	アンベックスの台頭 (1) 400シリーズ・テープ録音機 (1950-1953)	154	その57	ステレオ・テープデッキ (5) 米国・日本の状況と4トラックの問題点	408
その20	アンベックスの台頭 (2) 350シリーズ・テープ録音機 -1-	161	その58	ステレオ・テープデッキ (6) アンベックス 2000 シリーズ	418
その21	アンベックスの台頭 (3) 350シリーズ・テープ録音機 -2-	168	その59	ステレオ・テープデッキ (7) 総括	427
その22	多重録音とレス・ホール オーバーダブとマルチトラック録音機	175	その60	録音テープ 録音テープの変遷	438
その23	アンベックスの台頭 (4) 600シリーズ・テープ録音機	183	その61	4チャンネルステレオ・テープ 4チャンネル・デッキからモバイル用まで	450
その24	第二次大戦後の欧州 (1) B&OとEMI	190	その62	テープ・カートリッジ カートリッジからカセットへ	456
その25	第二次大戦後の欧州 (2) STUDER / REVOX	196	その63	カセット (1) カセットの誕生	466
その26	第二次大戦後の欧州 (3) Philips, Retalker, Lyrec など	203	その64	カセット (2) ラジカセの普及	478
その27	第二次大戦後の欧州 (4) グルンディヒとタンバーク	208	その65	カセット (3) カセットの部品と特性	487
その28	第二次大戦後の欧州 (5) Nagra, Ferragrange など	213	その66	ドルビーノイズリダクション 各タイプの技術と特性	503
その29	第二次大戦後の欧州 (6) ソビエト連邦・欧州の規格	218			
その30	第二次大戦後の欧州 (7) BASFとAGFAの録音テープ	224			
その31	第二次大戦後の欧州 (8) 総括	230			
その32	交流バイアス (1) バイアス方式の発明	236	その67	dbxノイズリダクション	
その33	交流バイアス (2) カムラス、ヴェーベル等の特許	241	その68	バスフエニセットとエルカセット	
その34	交流バイアス (3) 日本の磁気録音研究 (1)	247	その69	プロ・アナログ	
その35	交流バイアス (4) 日本の磁気録音研究 (2)	253	その70	プロ・デジタル	
その36	戦後の日本 (1) 国産テープ録音機の登場	260	その71	MTR・セミアプロ	
その37	戦後の日本 (2) NHKの携帯型テープ録音機 (1)	267	編集後記	515	

以降は連載を予定した稿であったが、2013年1月2日著者の逝去により以下の章は絶筆に至った。特に、筆者が大きな貢献をしたMTR、パーソナルMTRに関する章、セミアプロMTRの章が残らなかったのは非常に残念である。